



鳥取県教育センターだより

H27年度 第1号

平成27年5月29日 発行

〒680-0941 鳥取市湖山町北5-201 【TEL】 0857-28-2321(代表) 【FAX】 0857-28-8513

【URL】 <http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【e-mail】 kyoikucenter@pref.tottori.jp

「元気な人づくり」をめざして

県教育センター所長 大西 泰博

青葉若葉の美しい季節となりました。県教育センターでは、平成27年度の研修講座を次々に開講・実施するなど、各種事業のスタートをきったところです。

多様な教育課題に対応した研修講座の実施、アドバイザー・スーパーバイザーの派遣や指導主事等による「出かけるセンター」の充実、また、学力向上に向けた授業改革やICTの教育活用に関する研究の推進など、さまざまな取組を進めています。特に、本年度は、新しく改編された組織によって、研修・研究・支援などの機能を総合的に発揮していこうと意気込んでいるところです。

「とっとりの元気づくり」を推進していくなかで、人づくりを担う学校教育への期待に応えるためにも、この『センターだより』を含め、学校の教育実践に役立つような情報発信に努め、教育センターから「元気」をお届けできればと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

平成27年度から教育センターの組織が変わりました

平成27年度4月より、昨年度まで教育相談課が行っていた業務は、「いじめ・不登校総合対策センター」が引き継いでいます。また、研修企画課は「教育企画研修課」と名前を変更しました。新たに学力向上担当ができ、アクティブラーニングに対応した研修を担当します。

平成26年度

教育センター

研修企画課

- ・研修企画担当
- ・ICT活用教育担当

教育相談課

総務課

いじめ・不登校総合対策センター

平成27年度～

教育センター

教育企画研修課

- ・研修企画担当
- ・学力向上担当
- ・ICT活用教育担当

総務課

いじめ・不登校 総合対策センター

総務担当

指導担当

教育相談担当

鳥取県教育の充実と発展に資するセンターをめざします。



新しい
連絡先



教育センター 代表電話・FAX・メール・アドレスは変わりません
教育企画研修課

- 研修企画担当 TEL 0857-28-2585・2856
- 学力向上担当 TEL 0857-28-2323
- ICT活用教育担当 TEL 0857-28-2323

いじめ・不登校総合対策センター

- 指導担当 TEL 0857-28-2362
- 教育相談担当 TEL 0857-28-2322
- 【FAX】 0857-28-8513 (教育センターと兼用)
- 【e-mail】 ijime-futoukou@pref.tottori.jp



研修企画担当は、基本研修・職務研修・専門研修の3つの研修の企画・運営等を行っています。また、「土曜自主セミナー」や「出かけるセンター」などを実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。
今回は、基本研修・職務研修の2つの研修の様子を紹介します。

基本研修 小学校10年経験者研修（研修番号2）5 / 19

「学級集団を育てる教師のリーダーシップ」

講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二



赤坂教授は講義のなかで、理想の学級集団の条件として、4つあげられました。

- ◆**ルールの確立** →→→→ 集団内に、規律・共有された行動様式があること
 - ◆**リレーションの確立** →→→→ 児童生徒同士の良い人間関係だけでなく、感情交流も含まれた内面的な関わりを含む親和的な人間関係があること
 - ◆**児童が学び合う意欲と習慣** →→→→ 一人一人の児童生徒に、学習や学級活動に意欲的に取り組もうとする意欲と行動する習慣があり、同時に児童生徒同士で学ぶ姿勢と行動する習慣があること
 - ◆**自主的に行動するためのシステム** →→→→ 集団内に児童生徒のなかから主体的に行動しようとする意欲、行動するためのシステムがあること
- 『出典 河村茂雄 2012をもとに』

また、子どもとの信頼関係づくりの重要性やほめることと叱ることの黄金比は4：1であるなど、明日からの学級経営においてすぐに活かせるヒントをたくさんいただきました。

演習では、『一人一人との個別の信頼関係をつくるにはどうしたらよいか』をテーマに、ワールドカフェ形式やペアで意見・情報交換をするなど、受講者は自分の学級経営を振り返りながら安心感のある学級づくりの必要性を確認することができました。また、児童に対する傾聴・好意、温かい言葉かけ、児童に教師の思いを伝えることの重要性を実感していたようで、受講者の振り返りシートには、「児童一人一人との信頼関係」「安心感」「やる気」「安全基地」「つながり」などのキーワードが記載されていました。

学校の重要課題である学力向上にも、温かい学級づくりが必要不可欠であり、日々の実践のなかで信頼関係の構築を積み重ねていくことの大切さを学びました。



本研修では、全国学力・学習状況調査の組織的な活用について、国の動向や全国学力・学習状況調査の基本的な考え方等に基づいた講義をしていただき、調査の結果を校内でどのように授業改善に結びつけていくか、事前課題をもとに演習を行いました。

職務研修 教務主任研修（中学校） 5 / 22

「学校活性化のための教務主任の役割」

～全国学力状況調査の結果に基づいた学校課題の把握と現状～

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉本 直美

【国の動向から】

◆「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問の概要を中心に「何を学ぶか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」その結果、「どのような力が身についたのか」という観点で学びの質や深まりを重視すること、特に、言語活動などの充実を通して、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学習（アクティブラーニング）等を推進していく必要がある。

◆平成25年度全国学力状況調査のクロス集計分析から

- ・授業の冒頭で目標を示す
- ・授業の最後に振り返る活動を仕組む
- ・積極的に言語活動を行う



※上記の3点を意識して授業を行う学校ほど、B問題の平均正答率が高い傾向がみられる。また、思考・判断・表現力の向上が期待できる。

杉本調査官からは、全国学力・学習状況調査を有効に活用した授業づくりにおける他地域の事例を紹介していただくなかで、特に成果を上げている地域や学校の取組の共通点を示されました。

<共通点>

- 解答類型より誤答が多かった問題および児童生徒の誤答の状況を詳しく分析し、今後の授業改善のポイントを明らかにして実践につなげていること
- 課題に対して全職員が把握していること
- 課題解決に向けての組織的な体制が確立していること

教務主任はそうした校内体制の中心的な役割を担っており、自校に持ち帰って実践できる内容が多い研修でした。

